

GSI キャラバンプロジェクト

「社会における相互理解の可能性を探る言語理論研究」

2022 年度の計画

森 芳樹

2022/09/20

今年度計画の中心は、ケルンとの国際会議になる。コロナ禍が収まる気配が見られなかった
ので、予算計画設計の段階で本来の計画（院生メンバーとの国際会議開催、出席と発表）を
大幅に縮小し、昨年度に計画したが延期となったこの国際会議（Germanistische Linguistik
zwischen Köln und Tokio (GAKT) 7）を、今年度計画の中心に据えることにした。今回で7
回目を迎えるこの会議は、S セメスターの終了直後に計画され、すでにつつがなく実施され
た。コロナ対策対応で、帰国の飛行機に搭乗できなかつたらどうしようかと、毎日が気が気
でない滞在となってしまい神経を使ったが、多くの院生メンバーが国際会議の経験を積む
ことができた。他の会議での発表、学術書籍、学術誌への論文の出版も順調である。

さらに、当初計画にはなかったが、11月に、今年度より欧米を中心とした国際学術組織
である Association for Logic, Language and Information (FoLLI) の支援を受けて開催され
ることになった Logic and Engineering of Natural Language Semantics 19 (LENLS19)を駒
場で組織、開催することとなった。現在、その準備に取り組んでいる。

本来の計画では、エジンバラにおける同様の企画、東京での規模の大きな国際会議も計画
されていたが、これらは来年度以降の実施を計画していく。